

歯科口腔外科・矯正歯科

● スタッフ（平成30年10月1日現在）

診療科長 近津 大地
医局長 高橋 英俊
病棟医長 長谷川 温
外来医長 仲井 孝之

医師数 常勤 14 名
非常勤 20 名

● 診療科の特徴

高齢化が進んでいる我が国では、口腔の医療はますます重要になってきています。そもそも口腔には「食べる」「しゃべる」「豊かな表情を作る」など、有意義な人生を送る為の必須不可欠な機能があります。現在、当科では臨床において顎変形症などについての手術、顎顔面骨折の整復、唇顎口蓋裂の顎裂部骨移植手術及び顎矯正手術、口腔癌の外科的治療や化学療法、またデンタルインプラントを用いた歯科補綴治療などを行っています。

● 診療体制と診療対象疾患

顎顔面インプラントセンター

歯を喪失された方に対するデンタルインプラント（人工歯根）は、近年広く普及し、一般的な歯科医療の一つとなりつつあります。当センターの特長は医科大学病院の特性を生かし、複数疾患を持つ患者さんのインプラント治療の対応も可能な点です。全身状態や隣接組織に対し十分に配慮したうえ、最先端の研究成果に基づいた科学的で安全な治療を実施しています。

腫瘍外来

顎・口腔領域には様々な腫瘍の発生により、適切な処置が遅れると重篤な結果を招くことがあります。また、単に褥瘡と考えられていたものが、すでに悪性化している事も少なくありません。特に、悪性腫瘍は全身病であり、全身的な立場から治療を行う事が大切です。

当科は医科大学の口腔外科という立場を生かして、各科と連携して、最新の再建手術を含めた治療を行っています。

粘膜疾患外来

口唇から口咽頭部にいたる口腔粘膜に生じた炎症性疾患、扁平苔癬や白板症などの角化性疾患など、す

べての口腔粘膜病変を対象としています。

治療はレーザー治療や蒸散、外科的切除から薬物治療まで、最新の治療を行います。

血液疾患外来

東京医科大学病院へは多数の血液疾患の患者さんが来院します。そのため、当科へも院内各科から血友病、白血病、再性不良性貧血、ITPなどの多くの患者さんが紹介されます。当科の血液外来は血液疾患患者を専門的に扱い、口腔外科的処置を中心に行います。

顎関節外来

近年、顎運動時に顎関節の異常や、ときに頭・頸・肩部の疼痛、目の疲労などの多様な臨床症状を訴える顎関節疾患が増加し、当科を受診しています。顎関節外来ではこれらの原因を精査し、咬合異常の原因を除去するとともにスプリント療法、関節腔内パンピング・マニピュレーション療法を行っています。顎関節に異常があって難治性の患者さんのご相談を受け付けています。

顎変形症外来

顎変形症は上下顎骨の相対的あるいは絶対的アンバランスにより、開咬や前突だけでなく、時に顎関節症を併発し顔面の機能的・審美的な障害を引き起こす疾患です。この治療には口腔外科、矯正歯科、補綴歯科などからなる集学的治療が要求され、多くは術前矯正治療後、下顎枝矢状分割術や上下顎移動術などの顎矯正手術が行われます。

矯正歯科外来・口唇口蓋裂外来

当科では歯列不正に起因する咬合異常や審美不良を訴える患者さんのために、専門医による矯正歯科外来を設けています。また、口唇口蓋裂など先天異常の歯列矯正も行っています。また外科手術では口蓋形成術、顎裂部骨移植術、顎矯正手術などを行なっています。

慢性疼痛外来

口腔・顔面は脳神経やその分枝が複雑に入り組み、疼痛の原因が特定できないことが少なくありません。このため、患者さんは長い間疼痛に悩まされ、QOLも大きく障害されることとなります。このような症状の診断や治療には器質的・心理的アプローチが必要です。当科では一人の患者さんに複数の担当医が面接し、薬物療法、行動療法、スプリント療法などにより疼痛の緩和やQOLの向上に努めています。

SAS（睡眠時無呼吸症候群）外来

当科は内科・耳鼻科とともにチーム診療を行っており、マウスピースによる治療と顎を前方に出す手術を担当いたしております。

